

【成長戦略課題】施設土耕キュウリ抑制栽培における増収技術および越冬作型の開発（R7～10）

総合農業技術センター

背景・目的

○データ農業のこれまでの試験で、高軒高施設キュウリの仕立て方法や灌水方法等の増収技術を確立してきており、低軒高施設の土耕栽培への応用が求められている。

○また、産地ではより生産性の高い作型が望まれており、単価の高い12～2月に出荷が可能な越冬作を試作している生産者も出てきているが、低温低日射の時期であるため収量が上げられておらず、収益性が低いことが課題となっている。

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
慣行																								
検討案																								



応用



【本研究の目的】

◎キュウリ土耕栽培において、抑制作における生産性向上を図るほか、越冬作型を確立することで、産地強化を図る。

研究内容

1～2年目

1. 土耕栽培における増収技術の確立

- ・仕立て方法 (つるおろし)
- ・養液土耕 (タイマー、日射比例)

2. 新たな作型の開発

- ・作型検討 (抑制作延長、晩植)
- ・仕立て方法
- ・養液土耕
- ・温度管理方法の検討

3年目

3. 経営的評価

- ・生産コストと収量との収支評価

4年目

3. 経営的評価

- ・抑制作延長および新作型を軸とした各作型との組合せ検討
- ・生産コストと収量との収支評価

期待される効果

- 増収技術の土耕への応用技術が確立され、データ農業技術の普及促進を図ることができる。
- 単価の高い時期に生産性の高い栽培技術が確立され、高収益栽培が可能となる。
- 釜無川流域のキュウリ産地の維持・強化が期待できる。



収益性の高い栽培が可能となり、経営安定につながる！